

ボロ校舎での授業^(※1)高商第2回卒^(※2) 天野 健介^(※3)

我々が入学した時代はまだまだ封建の名残りがまださめぬ時で、先輩諸氏の中には制帽は黒く照り焼きのごとく、腰に茶色にあせたる手拭を下げ、足元を見れば高下駄という姿で、ただただ恐怖そのものであったことを覚えております。ましてや新制中学という新教育のホヤホヤから入学した私達にとっては、すれ違うだけで身の毛のよだつ毎日でした。

我々同級生の場合、旧国民学校、新制中学と、そして私にとっては最後の学校生活であった高校まで、新しい校舎にはほとんどお目にかかれず、ほとんど卒業後に新校舎になるという不運の学校生活でした。

私にとって最後の学校生活となる高校も、入学して一学期も過ぎてやや学校にも馴れて参りましてから、なんとボロ校舎であることが判り、ただ啞然と致した次第です。雨が降れば雨もりで黒板は濡れてノートを取るうちに見えなくなる。廊下はお化け屋敷のごとき和音を発し仲々味のある校舎だと感じる頃は2年も終りごろだったと思います。

校舎の一部に階段教室と称して、ちょうど今の市民会館ホールのような作りの教室があつて、よくそこで化学の講義を聞いたものでした。佐藤義雄^(※4)先生のオットリとしたユーモアに富んだ講義は、勉強よりもときどき出るエッチな話が面白く、楽しい時間であつたことを覚えております。そのかわり一学期の化学の評点にはたいてい赤線が引いてあつたと記憶しております。

現在の校舎は一新して、我々の時代の面影として残っているのは今の講堂だけとなりました。あの頃の学校生活は現在よりは恵まれておりませんでした。学校生活の思い出としての修学旅行が3年生になって実施されることになりました。私の場合、小中学と修学旅行らしきものもありませんでしたので、単純な希望でしたが、心待ちにしておりました。しかし不運は最後までついて来ました。我々の時だけ先輩達が先年関西旅行でちよいと賑やかなお祭りをおやりになりましたためにカットされ、一同残念で担任の坂田正典^(※5)先生にずいぶん文句を言ったものでした。隣の普通科教室では、旅行の費用で辞書が買えると喜んでいるとの話を聞きなんとキザな奴等だなどとクラス一同怒ったものでした。

(※1) 創立80周年記念誌『相中相高八十年』(1978(昭和53)年5月7日発行)「思い出の記」より。

(※2) 学制改革により、昭和23年4月、福島県立相馬高等学校となる。普通科200名。当分旧制相馬中学校残置。

昭和24(1949)年4月、商業科が設置された(普通科150、商業科50)。

同時に、定時制普通科昼間部、定時制商業科昼間部、定時制普通科夜間部、農業科も。

学校週五日制が、昭和24年4月～27年3月まで3年間実施された。

(※3) 昭和28(1953)年卒、中村出身。

(※4) 昭和21～36年・相高教諭：化学。

(※5) 昭和23～49年・相高教諭：商業。